

【学園研 A】 パワーポイントの利用 : 有 ・ 無

1. 研究課題名

理想自己と道徳性に関する全学的実態調査

2. 研究代表者名

所属学部： 教育学部 職名 教授 氏名 石橋 尚子

3. 研究分担者名

所 属： 人間関係学部 職名 准教授 氏名 山口 雅史

所 属： 附属幼稚園 職名 園長 氏名 梶山美恵子

所 属： 附属小学校 職名 校長 氏名 中村太貴夫

所 属： 梶山高・中学校 職名 教諭 氏名 佐久間治子

4. 研究成果の概要 (2, 000字程度で記入。ただし、図・グラフは使わないこと)

問題の所在と目的：子どもたちが将来どのような人間に『なろう』と思うかは、それぞれの子どもが持つ目標としての人間像(理想の自己像)によって決まると考えられる。したがって、本学園の「人間になろう」という教育理念を実践するためには、子どもたちが自ら成長・発達していく上での理想とする人間像(理想自己)を、教師が適切に援助しつつ、育てていくことが必要である。従来の研究で取り上げられる理想自己は、「豊かな感性を持つ」「人より仕事ができる」「頭がよい」など、個人内の能力や特性の高さに視点が集中しており、公共性などの道徳的な視点が不足しているように思われる。この点に関しては、2005年に筆者らが実施した大学生を対象とした予備調査でも、「どんな人になりたいか」という質問に対する自由記述の中で、道徳的な特性に関する回答(「常識やマナーを守れる人」「人のために生きることができる人」)は非常に少なかった。このことは、現代の青少年の抱く理想自己あるいは目標とする人間像の中に、「道徳性(あるいは公共心)」といった側面が欠落している可能性を示唆している。

そこで、小学生から大学生までを対象として、道徳的な側面を考慮した理想自己を調査し、「人間になろう」を実践する“人間性教育”、すなわち“理想の人間像を目指して育つ子ども”を効果的に援助する教育のあり方を検討するための基礎資料の収集を行いたいと考える。昨年度はその前提として、子ども達の日々の成長発達に多大な影響力を持つ教師が、どのような人間像を理想として教育活動を展開しているのか、を自由記述に求めた。本年度はそこで得られたカテゴリーをもとに、生徒用並びに教師用質問紙調査用紙を作成し、全学园的調査の実施と分析の緒に就いたところである。調査対象者：梶山女学園中学校生徒 620名、高等学校生徒 1,145名、梶山女学園大学教育学部生 102名、教師(幼稚園・小学校・中学校・高等学校) 111名。

アンケート項目の構成：平成 19 年度実施の学園内(附属幼稚園・附属小学校・中学校・高等学校)の教員を対象とした意識調査結果(教師が育てたい理想の人間像)に、理想自

己に関する文献研究結果を加味し、以下の2資質11カテゴリーを作成。それぞれのカテゴリーから代表的な項目を2項目抽出し、22項目から成るアンケート調査用紙を作成した。生徒用では、その22項目について、現在自分自身がどの程度到達しているかを問う設問1を。また、22項目の中から将来なりたい理想像を選択させる設問2を設けている。さらに、それまでの教育歴（卒業した園や学校）を問うている。教員用の設問は1つで、生徒用の設問2と同じ形式である。

【社会人としての資質】 思いやり（共感性または愛他性）：①思いやりの心を持っている ⑫相手の立場に立つてものごとを考えられる 対人関係スキル：②周囲の人とのつながりを大切にする ⑬さまざまな考え方や生き方を認めることができる 社会性：③(高校生)として常識ある行動がとれる ⑭社会への関心を持っている 道徳性：④ルールやマナーを守れる ⑮正しいことを正しいと言える 他者からの承認：⑤人から信頼されている ⑩友達から好かれている 性役割（ジェンダー）：⑥女性らしさを大切にする ⑦女性らしさにこだわらない **【個人としての資質】** 積極性：⑦何事も前向きに考えられる ⑧目標を持って物事に取り組む 誠実さ：⑧人の意見を素直に聞ける ⑨何事にも真面目に取り組める 知性：⑨知識や教養が豊かである ⑩よく考えて判断できる 自律性：⑩人に頼らずに行動できる ⑪自分の行動に責任を持てる 自尊感情：⑪自分が好きである ⑫自分を大切にできる

調査結果—基本集計—(現在分析中)

生徒の自己評価「今の私」は比較的高く、中学生から高校生へと向上傾向がみられた。肯定回答率が60%を上回る項目が、中学生16項目、高校生19項目、大学生18項目であった。将来の理想像「なりたい私」では、「思いやりの心を持っている(中:55%, 高:53%, 大:60%)」「人から信頼されている(中:52%, 高:52%, 大:46%)」「自分の行動に責任を持てる(中:39%, 高:46%, 大:45%)」の3項目が、共通して上位選択されている。「人から信頼されている」には、自己意識の高まりと自尊心を高く保つことを望む青年期の特徴が反映されているようで、教員の選択率は低い。

教員は、「思いやりの心を持っている(幼:87%, 小:80%, 中・高:69%)」「相手の立場に立つてものごとを考えられる(幼:60%, 小:80%, 中・高:50%)」の2項目を共通に上位選択し、対他者指向性を求めている。これらに続いて、幼稚園教員は「自分を大切にできる(73%)」を選択し、生きる上で基本的に大切な自己肯定感を強調している。小学校教員は「ルールやマナーを守れる(40%)」「何事も前向きに考えられる(40%)」を選択。ギャングエイジや勤勉性の獲得といった児童期の特色と課題が反映されているようである。中学・高校教員は「中学生(高校生)としての常識ある行動がとれる(37%)」を選択し、社会人としての基本的なスキル獲得を望んでいる。対象児の発達に応じた若干の違いがみられた。生徒も教員も「思いやりの心を持っている」を最多選択していて、理想像としている。両者が希求する「思いやり」の中身や選択理由などにも着目していきたい。また、他の選択についても丁寧な検討を試みたいと考えている。